



理事長挨拶：

「日本を護る会レポート 49 号」をお届けします。

昨年 2 月のロシアによるウクライナ侵攻以来、世界は激動の様相を呈していますが、さらに 10 月にはパレスチナのハマスによるイラエル攻撃が起き、これに加えて我が国内においては現政権を揺るがす動きで政治が不安定な状況となっています。このような状況の中で「日本を護る会」は我が国本来の姿を振り返る意味で、第 103 回定例会においては当会の会員である国際政治学者の山下英次教授による「大東亜戦争で我が国は一体誰と戦ったのか? ルーズヴェルトがおかした 20 世紀最大の愚行」と題する講演会を行い、我が国現代史における最大の問題に関して考察し、過去の教訓を如何に我が国が今後の進むべき道に活かすべきか等に関して活発な質疑応答を行いました。来る令和 6 年も世界は益々激しく動くものと思われまますので、当会は我が国が国家として整然とした体制を保ち、世界平和に貢献できる道を求めて活動したく考えます。

理事長 大橋 武郎

第103回 定例会

演 題 大東亜戦争で日本は一体誰と戦ったのか?
「ルーズヴェルト(FDR)がおかした20世紀最大の愚行」

講 師 国際政治経済学者 山下英次氏

日時 令和5年11月11日(土)午後2時～午後4時 場所 銀座サロン・ド・ジュリエ



講師略歴

1947 年東京生まれ

1970 年慶応義塾大学経済学部卒業 東京銀行勤務を経て、

1988 年大阪市立大学へ、同大学大学院経済部研究科教授。欧州大学院 (EUI)

ロベール・シューマン高等研究所 (RSCAS) 客員教授、国際歴史論戦研究所

(iRICH) 創設者兼所長、自由社の中学歴史教科書の共同執筆者などを歴任、

現在、(公財)国際通貨研究所 (IIMA) 客員研究員、「不当な日本批判を正す

学者の会 (AACGCJ) 共同創設者兼専務理事、育鵬社の高校歴史教科書の

共同監修者・執筆者

本日は、2023年8月に上梓された「日本よ、^{れっき}歴とした独立国になれ！」(ハート出汎)の第4章「戦勝国史観を根底から覆す時が来た」と第5章「真の意味の国の独立なくして日本の蘇生なし」を中心にして講演された。

本書の狙い=脱洗脳の「読む解毒剤」の提供:多くの日本人に、一日も早く洗脳から脱却してもらいたい。

☞第二次世界大戦(WWII)の最も重要な本質は、FDRが戦うべき相手を取り違えたということ

チャーチルの「鉄のカーテン」演説は、1946年3月であるが、その前に、米外交官ジョージ・ケナンがモスクワからワシントンに「長文電報」を打電し、ソ連に気を付けろ、政治的に封じ込めるべきだと訴えたのは1946年2月である。これでソ連に対する幻滅がワシントンに広がるきっかけとなった。さらに1947年3月「トルーマン・ドクトリン」で世界は全体主義と自由主義に分裂していると認識し、米ソの対立が決定的となった。終戦からわずか半年後に、これまで同盟国として一緒に戦ってきた相手を、ようやく敵と認識したわけであり、それ自体「われわれは戦うべき相手を取り違えました」と認めているようなものである。

本来ならば、ほとんどあり得ないようなFDRの決断—共産主義の全体主義的独裁者スターリンと組むなどという途方もない誤り—が、今日なお巨大な悪影響を全世界に及ぼしているのである。

一国のリーダーともなれば、歴史に学ぶという姿勢が不可欠であるが、FDRにはそういうところが見られない。FDRの悪辣ともいえるような政策によって、日本は追い込まれて戦わされてしまったのである。

チャーチル英国首相は、著書『第二次世界大戦回顧録』で、「WWIIは無用の戦争であり、今度の戦争ほど防止すること容易だった戦争はかつてなかった」(1949年、序論のpp.3-4)と述べている。チャールズ・ウィロビー陸軍少将(GHQ参謀第2部部长)も、著書『知られざる日本占領』で、「米日は戦うべきではなかった。日本は米軍にとって本当の敵ではなかったのである。」(1973年、pp.15-16)と述べている。



FDRは、戦うべき相手を取り違えるという初歩的かつ根源的な誤りをおかしたわけである。WWII以前には、社会主義国は、ソ連とモンゴル人民共和国だけであり、世界に2つしかなかったが、ソ連を戦勝国にしてしまったため、戦後は大幅に増殖し、ピーク時には41カ国にまでなった。このことは、非社会主義国にとっては、まさに大惨事以外の何物でもない。

☞WWIIは、そもそも避けられた不必要な戦争である

日本政府は、いわば「たちの悪いギャング(FDR政権)に睨まれた堅気の市民」のようで、米国は日本にとにかく最初の一発を撃たせるために、各種の経済的な締め上げを含めて、ありとあらゆる手段で追い込んでいった。

☞WWIIの2つの大きな背景

- ① ヴェルサイユ条約の大失敗;敗戦国ドイツに対する不正義(領土の13%もの割譲&途方もない金額の賠償金要求)により、ドイツ国民に怨念が残った。他方、ドイツ国内における共産主義の興隆に対する恐れもあり、ナチスの台頭を許した。

- ② 1930年代の大恐慌

保護貿易主義、世界経済のブロック化、不安定な国際通貨体制など、各国とも、未曾有の困難を抱えていた。こうした苦境脱出のため、多くの主要国が、国家社会主義的政策を採用した。このような環境下で、欧州諸国は、ロンドン国際経済会議を開催して、大恐慌時の国際通貨システムの立て直しを図ったが、1933年から1934年にかけて、大統領になったばかりのFDRはこうした努力をすべて台無しにした。

すなわち、WWⅡの主要な要因は、大恐慌とその後の対応の失敗にあるが、それらのほとんどすべての原因は、米国が作り出したものである。日本は、WWⅡ発生 of 要因にほとんど責任はない。

☞WWⅡについて、本来、われわれが問い掛けるべきこと

これまで、日本人は、「なぜ強大な米国と戦う」というような愚かなことをしたのか?」といった類の問い掛けばかりしてきたが、それも GHQ 洗脳による自虐史観のなせる業である。その代わりに、WWⅡについて、われわれが問い掛けるべき質問は、①FDR はなぜ敵を取り違えたのか?、②FDR 政権内にはソ連のスパイが約 300 名いたと言われるわけであり、日本はいったい誰と戦ったのか?つまり、資本主義の最強国である米国と戦ったのか、それとも米露の共産主義同盟と戦ったのか?、とすることである。そして、その答えは、恐ろしいことに、おそらくその両方であろう。どういうことかと言うと、頭は共産主義者、体は筋骨隆々の資本主義者というモンスターと戦ったということであろう。

☞日米戦争は、日本軍が真珠湾を攻撃したから始まったわけでは断じてない

開戦に至るまで、日本政府は、真摯に対米国開戦回避努力を涙ぐましく続けてきた。FDR の無理にでも世論を引きずるために、どうしても、日本に最初の一発を撃たせる必要があった。そのために、日本を経済的にどんどん締め上げていった。真珠湾の何カ月も前に、日米戦争は、米国が仕掛けたことによって始まっていた。そして、1941年11月26日の「ハル・ノート」は、FDR 政権の日本に対する最後通牒であった。

☞大きな国難に直面しているわが国

現在の日本は、「前門の虎3匹（中・露・北朝鮮）と後門の狼（米国の政策失敗リスク）」に直面している。わが国の開國以来5度目の大きな国難と言える。

☞日本の独立に向けてなすべきこと

独立国家の三種の神器、すなわち、①自主憲法（具体的には現憲法の破棄）、②自衛隊の国防軍化、③スパイ防止法に裏付けられた統合された国家情報機関の設立を実現する必要がある。

☞歴史の評価は、最低100年は経過しないと定まらない

戦後、まだ78年であり、WWIIの見直しは、これからどんどん出てくるであろう。戦勝国史観を根底から覆す主張を対外的に積極的に展開をしていかなければならない。



☞国民によるメディアに対する告白・懺悔の大合唱

メディアは、戦後、GHQによる日本国民の洗脳に加担させられたことを告白・懺悔しなければならない。これは、メディアの国民に対する責任であり、国家的責任である。

☞おわりに

近年、日本経済の国際的な地位が低下しているが、その再生のためにも、非独立国から「歴とした独立国」になることが不可欠である。日本は一刻も早く独立国家の三種の神器を整えて、すでに始まった新冷戦において、自由民主主義陣営のコアの一角として、アメリカなどと共に QUAD を軸に、「自由で開かれたインド太平洋」(FOIP) 戦略を力強く推進して行くべきである。

質疑応答



懇親会



忘年会

日時：令和5年12月13日 17時～ 於：市ヶ谷東京閣

12月13日、日本を護る会は本年の忘年会を市ヶ谷会館1階の東京閣で行いました。18名の方々の参加を得て理事長の乾杯から始まり各テーブル毎での活発な意見交換があり、今後の活動の在り方など大いに盛り上がり忘年会としての所期の目的を達成しました。



事務局からのお知らせ

- * 本年度に入り改めて会員の皆様に会への寄付のお願い、また、それに伴う税制上の利点の説明をさせて頂きましたところ、11月末時点において8名の方からご寄付を頂きました。この場をお借りして心より御礼を申し上げます。認定 NPO 法人を運営していくためには役員、事務局員にとって事務所の存在は必須のものとなっております。現在の事務所は幸運な環境から最低限の費用で賄っております。しかしながら、当事務所は今後控えている再開発事業の対象となっている建物の為にその特典は近い将来受けられなくなります。その危機に備えて資金を蓄える必要があります。皆様のご協力が必須です。お知り合いの方、法人など当会の維持、発展の為にサポートを頂ける方をご紹介いただければ幸いです。皆様のご協力を切にお願い申し上げます。
- * 事務局ではサポートをして頂ける方を探しています。
どんなことでもお手伝いが頂ければ大変助かります。そのご意思がおありの方は是非事務局にご一報ください。 ホームページ、フェイスブックの扱いなどが得意な方は大歓迎です。

今後の予定

- 1月 令和6年新年の昇殿参拝と豊栄舞参観
日時：令和6年1月13日（土）
場所：東京大神宮
- 2月 第104回定例会 10日（土）
「空自操縦者の実態」をテーマに現役自衛官の講演を予定。

年会費、御篤志お振り込み先

ゆうちょ銀行

店番号 038 普通預金 記号10380 番号92589171
口座名義 トクヒ) ニホンヲマモルカイ

日本を護る会・レポート 第49号 令和5年12月発行
編集発行：認定特定非営利活動法人 日本を護る会
ホームページ：<http://awake-japan.sakura.ne.jp>
E-mail : awake-japan@googlegroups.